令和7年度 調布市立飛田給小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
校風「ゆずりの心」を大切にしたい 心ゆたかな たくましい子どもの育成 1 じょうぶな体 2 思いやりの心 3 考える力 4 やりぬく力	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさに気付いて自信をもち、多様な人々を受け入れ、互いに支え合う学校 ・子どもの成長をともに喜びあえる学校 ・一人一人の子どもを大切に、最大限に力を伸ばす学校 	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学力は身に付いてきているが、それを活用して考え、最後までやり抜く力を高める必要がある。 ・明るく素直であるが、自分に自信をもてない子供がいる。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使う。 ・人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げる。 ・言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読解のために必要な言語事項の指導や音読指導、語彙を増やす指導、読書活動を計画的に設定する。 ・読み取ったことや考えたことをグループや学級全体で話し合う活動を設定する。 ・話したり、聞いたり、書いたり、読んだりする場面において、言語活動を振り返る活動を取り入れる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活について理解し、情報を適切に調べ、まとめる。 ・課題を把握し、考えたことや判断したことを適切に表現する。 ・よりよい社会を考え、主体的に問題解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を調べ、グラフなどを正確に読み取り、情報を適切にまとめるためのタブレット端末の効果的な活用を進める。 ・「つかむ、調べる、考える、まとめる、振り返る」の学習過程とノート指導の充実を図り、根拠を基に自分の考えをまとめられるようにする。 ・調査活動などの具体的な体験活動の充実を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な概念や性質を理解し、数理的に処理する知識・技能を身に付ける。 ・課題解決への見通しをもち、筋道立てて考察し、簡潔・明瞭に表す。 ・粘り強く考えることができるとともに、学んだことを生活や他教科の学習で活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や授業内で練習問題に取り組み、既習事項の確認、定着を図る。 ・立式の根拠や複数の解法を考える課題を取り入れ、自分の考えを説明する場面を設定する。 ・ノートの書き方を指導し、自分の考えを論理的に表現したり、振り返ったりできるようにする。 ・図形や統計データをより詳しく調べ、まとめられるようにタブレット端末を有効に使う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象についての性質や規則性について理解する。 ・問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行い、結果を基に考察する。 ・粘り強く、友達と関わりながら問題解決し、学んだことを学習や生活に生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験等の具体的な体験を通して、実感を伴った理解を図ることができる学習場面を設定する。 ・観察、実験後に表やグラフにまとめる活動を増やし、表やグラフに対する見方を養う指導の充実を図る。 ・身近な道具や科学技術との関連など、日常生活に当てはめて考える学習場面において、タブレット端末を活用して協働的に学ぶ活動を設定する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりする。 ・楽曲や演奏のよさを見いだしながら音楽を聴く。 ・音楽活動を楽しみながら、友達と関わって取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造の関わりを捉え、表現するために必要な技能を身に付ける。技能の定着を図るため、児童の実態に合わせて器楽の個別練習を行う。 ・ICTの活用を通して、自分の思いや意図を伝える場を設定する。 ・友達と関わり合い、楽しみながら最後までやり抜く力を育む。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫して、創造的に作ったり、表したりする。 ・自分のイメージをもちながら、表し方について考える。 ・つくりだす喜びを味わい、主体的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊び」の能動性を学習に取り入れた「造形遊び」を推進力とし、活動をより活発で主体的なものとする。 ・鑑賞時に話し合い活動を取り入れ、互いの良さや違いを認め合い、自分の見方や考え方を広げられるようにする。 ・校内に作品を展示したり、タブレット端末を活用して友達の作品を見られるようにしたりして、様々な表現方法があることを知り、自分たちの作品に表れている創造性を大切にできるようにする。

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。 ・運動の行い方や健康、安全について理解し、基本的な動きや技能を身に付ける。 ・課題を見付け、その解決に向けて思考、判断し、他者に伝える力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が日常的に運動に親しむことができる環境を整えることで、運動に主体的に取り組めるようにする。 ・体力テストの分析結果を生かし、課題のある運動を意図的に取り上げ、授業を通して体力の向上を図る。 ・めあての明確化や学習カードの活用、伝え合う時間の設定をすることで個々の能力に応じた課題を解決できるようにする。
<p>家庭科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活について必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境について理解し、技能を身に付ける。 ・日常生活の中から課題を見だし、解決する力を身に付ける。 ・家族の一員として、生活を工夫しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に必要な知識・技能を、体験を通して身に付けられるようにする。 ・身に付けた知識や技能を日常の家庭生活で実践する場を設ける。 ・保護者の協力を得ながら、家庭での再実践を促し、これからの生活に生かしていけるようにする。
<p>生活科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさに気付く。 ・自分自身や自分の生活について考え、表現する。 ・身近な人々、社会、自然に自ら働きかけ、自信をもって学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。 ・感じたり、考えたりした内容を話し合う場と時間を設ける。 ・体験活動を充実させるとともに、体験したことを基に気付いたり、考えたりする活動の充実を図る。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションにおいて活用できる外国語の基礎的な技能を身に付ける。 ・身近で簡単な事柄について、外国語で自分の考えや気持ちなどを伝え合う。 ・主体的に外国語を用いて、他者とコミュニケーションを図ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの活動に取り組む。 ・ペアワーク、グループワークなどの学習形態を工夫して、友達に質問したり、質問に答えたりする場面を設定する。 ・簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行う。
<p>道徳科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよく生きるための道徳的価値について理解する。 ・自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える。 ・道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのつながりを意識して、教科書を活用する。 ・自分の考えを書いたり、友達と話し合ったりするなどの言語活動を充実する。 ・「多様性と調和」をキーワードにして、障害者理解教育に取り組む。
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 ・身近で簡単な事柄について、外国語で自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 ・主体的に外国語を用いて、他者とコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、聞くこと、話すことの活動に取り組む。 ・ペアワーク、グループワークなどの学習形態を工夫して友達に質問したり、質問に答えたりする場面を設定する。 ・簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切に、楽しみながら体験的な言語活動を行う。